

天保12(1841)年当時の坂本家(推定)
イラスト・川崎真優
※年令はすべて数え年

龍馬が 七歳 だったころ

天保期の土佐の社会と暮らし

「土佐年中行事図絵」(高知県立図書館所蔵)



兄・権平 28才 義姉・千野 21才 龍馬 7才 姉・乙女 10才 祖母・久 62才 父・長兵衛(八平) 45才 母・幸 44才

令和4(2022)年 7月9日(土)~10月19日(水) 会期中無休

■開館時間 9:00~17:00(最終入館16:30) ■観覧料 一般700円(20名以上の団体560円) 高校生以下無料
※高知県または高知市の長寿手帳所持者は無料※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者1名は無料

●記念講演会(高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会共催)
「龍馬の時代の高知城下町
~花台とノエクリ・大仏踊りを中心に~」
講師:高知県立高知城歴史博物館副館長兼教育普及課長 横山 和弘氏
9月11日(日)13:30~15:00 坂本龍馬記念館新館1Fホール
定員40名(要申込・先着順) 参加無料 ※電話・ファックス・メール・HPお問い合わせフォームにてお申込みください。

関連
企画

●担当学芸員による展示解説
7月16日(土)14:00~/9月11日(日)11:00~
申し込み不要 参加無料(要観覧料)
※直接企画展示室にお越しください。



土佐の祭り 藤並神社御幸幸絵巻(部分) (複製/高知県立高知城歴史博物館所蔵)



土陽伝笑図絵(部分) (高知市立市民図書館所蔵)

大人になってふるさとを離れた後、多くの方は子ども時代を過ごしたふるさとの風景や人々、食べ物などを懐かしく思い出します。文久2(1862)年、27才で土佐を離れ、慶応3(1867)年、33才で京都に没した龍馬。忙しく飛び回る日々のなかで、龍馬もまた、ふとした瞬間に土佐で過ごした子ども時代を懐かしく思い返したのではないのでしょうか。

実際のところ、龍馬の幼少期や当時の坂本家を知ることのできる資料はほとんど残っておらず、詳しいことがわかっていません。「龍馬は寝小便たれだった」などという幼少期の逸話については、多くが後世のフィクションと考えられています。したがって本企画展では、龍馬の幼少期ではなく、龍馬が幼かったころの「時代」について考えます。たとえば、龍馬が7才、現在の小学校1年生ぐらいの年齢であった天保12(1841)年という年に、幼い龍馬を取り巻く当時の土佐や日本、世界はどのような様子だったのでしょうか?可能な限り周辺資料を用いて裏付けをとりながら、それでもいくぶん推定を交えた紹介にならざるを得ない部分がありますが、今から181年前の土佐とともに思いをはせていただけましたら幸いです。



山内豊信(容堂)15才 武市鹿衛(半平太)13才 中岡福太郎(慎太郎)4才 平井収二郎7才 平井加尾4才 万次郎(ジョン万次郎)15才
天保12年当時、龍馬ゆかりの土佐の人びと(推定)



当時の子どもの遊び
子供遊寿双六(高知市立市民図書館所蔵)

龍馬が 七歳だったころ

—天保期の土佐の社会と暮らし—

高知県立坂本龍馬記念館 令和4年度企画展

- JR高知駅からとさでん交通バス「桂浜」行、「龍馬記念館前」下車徒歩約2分
- 高知駅発着で龍馬記念館などをめぐるバス「MY遊バス」(一日乗り放題)もお得です。毎日運行
- 車・タクシー利用の場合、JR高知駅から35分、高知龍馬空港から約25分、高知南インターから約20分
- 駐車場 普通車42台(うち障害者用駐車場2台)バス4台

主催 高知県立坂本龍馬記念館
(公益財団法人高知県文化財団)
後援 高知新聞社、朝日新聞高知総局、毎日新聞高知支局、読売新聞高知支局、共同通信社高知支局、時事通信社高知支局、RKC 高知放送、KUTV テレビ高知、KSS高知さんさんテレビ、NHK 高知放送局、エフエム高知



高知県立坂本龍馬記念館
The Sakamoto Ryoma Memorial Museum

〒781-0262 高知県高知市浦戸城山830 TEL 088-841-0001 FAX 088-841-0015
mail ryoma@ryoma-kinenkan.jp
http://www.ryoma-kinenkan.jp/

